



Data

監督: M・ナイト・シャマラン
出演: ジェームズ・マカヴォイ/ア
ニヤ・テイラー=ジョイ/ベ
ティ・バックリー/ヘイリ
ー・ルー・リチャードソン/
ジェシカ・スーラ

■■■ショートコメント■■■

◆誘拐された3人の女子高生VS<23+1>の人格を持つ男。『シックス・センス』(99年)で世界中にセンセーショナルを巻き起こしたM・ナイト・シャマラン監督が完全復活! 『羊たちの沈黙』(91年)のハンニバル・レクターや『ダークナイト』(08年)、『シネマルーム21』25頁参照)のジョーカーにも匹敵する「スーパー・ヴィラン」を演じる、<23+1>人の人格を持つ男とは?

そんな派手なコマーシャルで人気を煽っているためか、公開初日の土曜日の劇場の入りはほぼ90%。しかし、肝心の内容は?

◆女子高生や若い女性の「誘拐もの」では、誘拐犯に対する被害者の知恵の出し具合や対策の立て方、そして、脱出への意欲が見ものになるが、本作でその役割を担うのが、クラスの中では完全に浮き上がり、孤独な存在のケイシー(アニヤ・テイラー=ジョイ)。たまたまケイシーと一緒に誘拐されたのが、おしゃべりで人気者のクレア(ヘイリー・ルー・リチャードソン)とマルシア(ジェシカ・スーラ)だが、いざとなるとこの2人は何の役にもたないことが明らかに……。この対比は、今どきの軽薄な教育事情を考えると、たしかに興味深い……。

◆もっとも、本作のポイントはそれではなく。ジェームズ・マカヴォイ演ずる誘拐犯ケビンが、ケイシーたちを監禁部屋に収容した後、「私があなたたちを守ってあげるわ、彼は私のいいなりなの」といいながら、明らかに違う「人格」の男(女?)が登場すること。医学上、多重人格障害(DID)という病気があり、本作はそれを最大のネタにした映画で、ジェームズ・マカヴォイは<23+1>の人格を使い分けるそうだから、それに注目!

「ある時は〇〇、またある時は××、しかしその実体は……!」というセリフで有名な片岡千恵蔵の「多羅尾伴内」シリーズや、明智小五郎探偵との対決を中心にした「怪人二十面相」シリーズでは、主人公が一人で何人もの人物に変身するのが「売り」だった

が、これはあくまで外見だけの変装。また、中国映画の『變臉（へんめん） この權に手をそえて』（96年）（『シネマルーム17』399頁参照）は、あくまで顔の変化だけの芸術だった。しかし、本作は外見上の変化ではなく人格そのものが変わる物語だから、そのサイコスリラー性に注目！

◆現在、エマ・ワトソンが主演したディズニーの実写版『美女と野獣』（17年）が大ヒット中だが、その英題は『BEAUTY AND BEAST』。劇中で歌われる名曲中の名曲のタイトルも『BEAUTY AND BEAST』だ。この映画によって、野獣=BEASTという英語が定着したが（？）、本作で女性精神科医カレン・フレッチャー（ベティ・バックリー）が、ケビンに対して下している病名が「解離性人格障害」（DID）。つまり、ケビンは一人で23の人格を持っているわけだ。そうすると、いつどの人格が出現するかの競争が大変らしい。

ストーリーの中では、①ケイシーたちを誘拐した最初の男ケビンの他、②神経質で潔癖症の青年、③9歳の無邪気な少年、④優雅な女性等の人格が、くり返し登場し、そのたびにケイシーたちと複雑な会話をくり広げていくから、それに注目！

◆フレッチャー医師はこんなケビンの病状をしっかりと把握し、23の人格の登場をバランスよくコントロールする役割を担っていたが、本作後半はこの23の人格を超えて、さらに、「プラス1」の人格（？）が登場してくる。それが、フレッチャー医師が恐れていたBEASTの人格だが、さて『美女と野獣』のBEASTとは全く異質な、本作における「プラス1」の人格たるBEASTとは？しかして、フレッチャー医師はこれも適確にコントロールできるの？もし、それが制御不可能になってしまうと・・・？

◆本作ラストは意外にあっけなくケイシーの逃亡が成功し、ケビンは逮捕されてしまうことになり、女子高生誘拐事件は無事解決。めでたし、めでたしの結末になるが、そこでシヤマラン監督の映画らしく（？）突如登場してくるのが、何とブルース・ウィルスだ。

ブルース・ウィルスは、『シックス・センス』に続く『アンブレイカブル』（00年）でデイヴィッド・ダン役を演じたが、どうも本作ラストで、ダイナーのカウンター席に座るブルース・ウィルスはそのダンらしい。

しかして、本作と『アンブレイカブル』の間にはいかなる関係が・・・？さらに、当然のように考えられている（？）本作の続編は・・・？

2017（平成29）年5月17日記